

学校説明会

日程・実施形態等を変更させていただく場合があります。
ご来校前に本校ウェブサイトをご確認ください。

7月25日(金) 帰国生対象 説明会

9月27日(土) 第1回 学校説明会(3部制)
中学生対象

10月4日(土) 第2回 学校説明会(3部制)
中学生対象

注意

※ インターネット予約が必要です。

※ 学校説明会の詳細については、本校ウェブサイトでお知らせします。

文化祭

9月13日(土)
12:00~17:00

9月15日(月・祝)
8:30~14:00

※ 受験生とその保護者はインターネットでお申し込みの上、ご来場ください。

※ 入試相談会はありません。



 **青山学院高等部**
Aoyama Gakuin Senior High School

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL 03-3409-3880(高等部直通)
FAX 03-3409-5784(高等部)
<https://www.agh.aoyama.ed.jp/>



 **青山学院高等部**
SCHOOL GUIDEBOOK 2026

AOYAMA GAKUIN



青山学院教育方針

Educational Policy

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

The Salt of the Earth, The Light of the World

青山学院スクールモットー 「地の塩、世の光」 マタイによる福音書 第5章 13～16節より

高等部スクールポリシー

School Policy

Graduation Policy

(卒業時の到達目標に関する方針)

<キリスト教教育>
キリスト教の精神に基づき、人生を深く考え、愛と奉仕の精神を日常生活で実践する力を有している

<教科教育>
幅広い学問に対して柔軟に対応できるバランスの取れたリテラシー¹⁾を有し、自己を深く理解し、未来を見据えた生涯学習者としてのコンピテンシー²⁾を有している

<集団活動>
コミュニティの中で異なる価値観や個性を等しく尊重し、変化する環境の中で自らの役割を見出しそれをすすんで果たす力を有している

<国際理解教育>
地域社会の課題から地球社会の課題まで当事者として主体的に取り組もうとする姿勢を持ち、異なる文化圏の人と柔軟にコミュニケーションを取ることができる

Curriculum Policy

(教育課程編成の方針)

<キリスト教教育>
毎日の礼拝と聖書の学びを通して、真実を求める心を培い、神と人生とについて深く考え、人を愛し人に奉仕する人間の育成に努める

<教科教育>
教科の学習を通して、総合的判断力・洞察力・表現力を持ち、自分の人生の進路を切り拓く力をもつ人間の育成に努める

<集団活動>
学校の諸活動を通して、集団の中で自分の果たすべき役割を知り、それを実行できる人間の育成に努める

<国際理解教育>
国際的な視野に立って将来の社会に責任を負うことのできる人間の育成に努める

Admission Policy

(入学者受け入れの方針)

<キリスト教教育>
本校の教育理念に関心を寄せ、キリスト教精神の理解に努める姿勢を持てること

<教科教育>
中学校卒業相当、およびそれに準ずる知識と表現力を有し、教科を限定しない幅広い知的好奇心や探究心を有すること

<集団活動>
学校や地域社会などの所属するコミュニティに関わろうとする意欲をもち、他者と協力して問題解決に取り組もうとする姿勢を持てること

<国際理解教育>
国際社会に対する関心をもち、差異を超えて共に学ぼうとする姿勢を持てること

1) リテラシー：学問的な概念を理解し、論理的に情報を活用する知識や技能
2) コンピテンシー：社会文化的・技術的ツールを活用する力、多様な社会関係を構築する力、自律的に行動する力

高等部部長メッセージ

Message

Rejoice Always いつも喜んでいなさい。

“Rejoice Always”(いつも喜んでいなさい)は新約聖書の言葉ですが、みなさんはいつも喜びの中にいるでしょうか。青山学院高等部は、いつも喜びに溢れる学校を目指しています。

青山学院のスクールモットーは“地の塩、世の光”です。これは、私たち一人ひとりが地の塩であり世の光である、というイエス・キリストの教えによるものです。「塩」は味付けに欠かせないものであると同時に防腐剤としての役割をもちます。また「光」は、闇の中で道を照らすものです。この言葉は、世の中によい味をつけ、荒廃を防ぎ、たとえ世界が闇に包まれていても希望の光を与えていく、という人物像を示しています。このスクールモットーには、私たち一人ひとりが神に愛され賜物を与えられているということを知り、その賜物を活かして人々に社会に貢献できる人間になってほしいという願いが込められています。

私たちが生きていくこれからの時代は、先行きが不透明な時代であると言われてます。経済・教育・環境問題など様々な分野が過渡期にあり、分断や格差が助長されかねない状況にもあります。テクノロジーの発展によりコミュニケーションの方法や仕事の形態も大きく変化し、人間の役割も変化しつつあるようです。しかしそのような中にあっても、私たちにはより良い社会を築くという普遍的な課題に取り組む使命があります。青山学院高等部は生徒一人ひとりが深い学びと豊かな経験を積み、世界に貢献する人になっていく礎でありたいという願いを持っています。深い学びとは、知識や技能を身につけながら「なぜそうなるのか」「何が大切なのか」「どうすればよいのか」を考え、真実や真理を追究し、自分の意志や主張を構築し、表現できるようになることです。一人ひとりが主体的に学ぶ探究者となることを互いに期待し合える環境がここにあります。また高等部には、キリスト教活動・国際交流プログラム・平和共生プログラム・高大連携プログラムなどの様々な活動が用意されています。これらのプログラムに積極

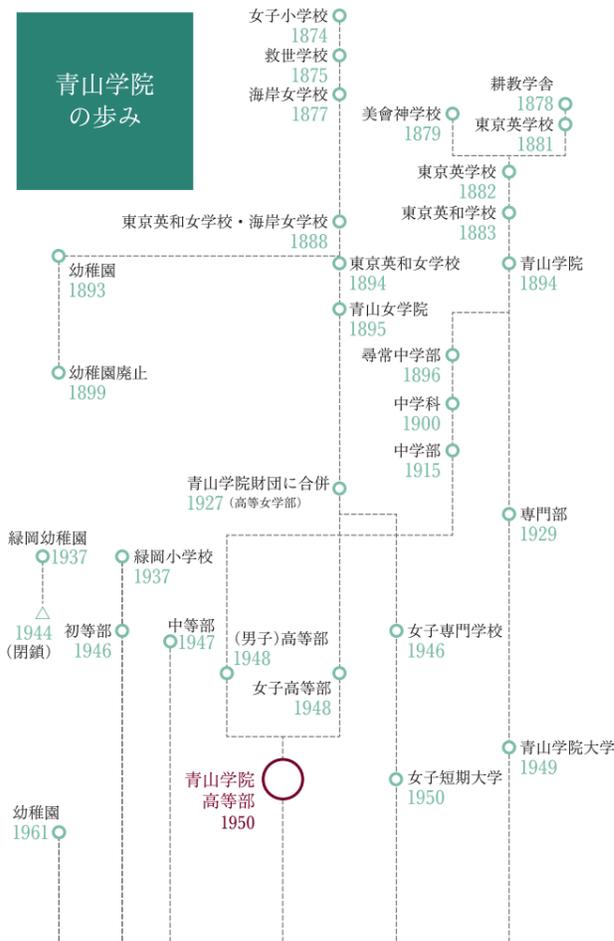
的に参加して、グローバルな視野と愛と奉仕の精神をもって他者と共に生きるための素養を身につけることを多くの生徒に期待しています。

このような学びや活動を通して成功や充実感を体験すると、大きな喜びが生まれます。しかし一方で、時には失敗したり思い通りにいかないことがあったり、困難な試練が与えられたりすることもあります。そのような逆境の中にも喜ぶことや感謝できることがあり、むしろそれらの経験を通じて人として最も深い喜びの一つである他者との絆が深まったり、他者に貢献する喜びを体験できたりすることがあります。皆さんが、他者の役に立つことや社会に貢献できることの喜びを実感しながら、人との関わりにおいて本当に大切なことは何なのか、世界における自分の役割は何であるのかを学んでくれることを願っています。

高等部での学びが皆さん一人ひとりを成長させ、それぞれの賜物がこのグローバル社会で豊かに活かされ、皆さんの生活が喜びで満ち溢れることをお祈りしています。



青山学院高等部 部長
渡辺 健





「礼拝」も「聖書」も高校に入って初めて触れた大切な時間です。

— [キリスト教教育] — ing

世界で起きていることの根幹を理解するための不可欠な学び

73期生 (2024年度卒業生) H.A.

中学生まで未知の世界だったキリスト教は、意外にも私たちの身近にありました。

宗教の授業で学んだ聖書は、現代の映画や演劇などのベースになっていることが多く、世界の人々の価値観や考え方を知ることができます。宗教の歴史は世界史そのものであり、現在、世界で起きている紛争や戦争の理由も理解することができました。毎日の礼拝では、牧師の先生や様々な方が聖書をベースに、世の中で起きている事象について語られました。ときに先生ご自身のことが語られることもあり、先生にも悩みがあるのだと親しみを感じました。

3年間所属したハンドベル部では、他者と協力しあってハーモニーを奏でる大切さを学びました。ロシアによるウクライナ侵攻が始まった頃、同時多発テロのときに黒人教会で演奏された曲をハンドベル部で演奏したことがあります。曲の成り立ちを学びながら、戦争は遠い国で起きているものではなく、今、私たちが生きている世界の現実なのだ実感しました。

選択授業で受けた「現代史特講」では、複雑な中東情勢についてもじっくり学ぶことができました。キリスト教教育から学んだのは、宗教とは必ずしも単なる精神的な問題ではないということ。世界で起きていることの根幹を理解するために、不可欠な学びを得ることができました。

学年の垣根を超えて学び人々が共生できる道を見つけたい

72期生 (2023年度卒業生) M.R.

高等部を選んだきっかけとなったのはBLUE PECOの存在です。世界の課題を学び、2007年に生徒が自主的に立ち上げた有志団体BLUE PECOでは、主にコーヒーのフェアトレードを通して東ティモールの抱える社会問題と向き合い、現地の人々を応援しています。コーヒーの生産農家を訪問する際「私たちの価値観を押しつけるのが支援ではない」と学んで現地に赴きましたが、実際に行ってみなければわからないこともたくさんありました。課題は数多くありながらも、私たちが温かく迎えてくれた東ティモールの人々に触れて、相手を尊敬する気持ちが湧き、途上国の支援とは相互理解の上に成り立つものだ実感しました。

青山学院高等部にはNGO団体の活動に参加したり、ボランティア活動をする機会も数多くあります。そもそもBLUE PECOは有志団体なので、組織や学年の垣根はありません。今はウクライナからの避難民の子どもたちとの交流など貴重な機会もあるので、一つひとつの学びを生徒に還元し、多くの人を巻き込んで平和と共生について考えていきたいと思っています。

大学生になってからも海外に赴く機会はあると思います。でも私は、高校時代にBLUE PECOで途上国に行くことができ本当によかったと思います。東ティモールでは時間がゆっくりと流れ、人々の生活は決して不幸ではありませんでした。いいところをたくさん発見できたからこそ、将来にわたって本当の「支援」とは何かを考え続けたいと思います。



— [平和・共生] — ing

page 09-10

STORYing

3年後のその先へとつながるものがたり

青山学院高等部には授業の枠を超えた多彩な活動があります。クラブ活動、生徒会、国際交流、そして社会との関わり——。生徒の数だけある活動の軌跡は、一人ひとりの人生の糧となり、多様な将来につながっています。



初めての海外でたくさんの刺激を受けました。

— [国際交流] — ing

page 07-08

机上の勉強とはまったく違ったリアルな国際交流の中にある学び

72期生 (2023年度卒業生) E.T.

カナダでのホームステイは英語を学ぶ意識を変えてくれました。日本で英語を学ぶとき、文法習得に集中しがちですが、ホームステイ先の家族と話をするとき、大切なのは文法よりも「コミュニケーションが成り立っているか」でした。最初の1週間くらいは、わからないことは聞き流していたのですが、それではコミュニケーションとは言えません。なんでも曖昧にせずに尋ねるようにすると、だんだんと自然なコミュニケーションができるようになりました。帰国してからは正しい文法の習得にとどまらず、多彩な価値観を持つ人たちと交流し、知識や見識を深めるツールとしての英語を学ぼうという意識が変わっていました。

実際に海外に行くことの意義は、語学の習得だけでなく、互いの文化を理解し合うことでもありました。僕が空手の道着を着て「型」を披露したところホストファミリーはとても喜んでくれました。ただ道を歩いているだけでも、歩道の脇にずっと先まで街路樹と芝生が植えられていたり、日本の歩道とは全く違う風景を見ることができました。カナダという国が目の前にあるだけで、それは机上の勉強の枠を飛び越えた「学び」でした。

青山学院大学進学後は国際経済について学ぶ予定です。もともと興味はありましたが、実際に海外に行ったことで、政策や経済のしくみの違いをもっと知りたいと思うようになりました。大学生になるまでの期間を次の学びへの準備期間として有意義に過ごすことができたのは、高等部だからこそだと思います。

選択授業と部活動でキャンパスライフを体験

73期生 (2024年度卒業生) S.K.

高大連携の授業選択で僕が決めていたのは、ほぼ毎日練習があるブラスバンド部と両立できること。そこで練習前の空き時間を使うなど、自分のペースで受講できるオンデマンドの授業を選択しました。

僕は歴史に興味があり、「歴史と人間」の講義を受講しました。これは世界の地域ごとに言語と人間の関わりを探究し、言語が歴史にどのような影響を与えたかを学ぶ講義で、植民地支配された土地に外国語が根付く過程を学んだ講義はとて興味深かったです。

青山学院大学では国際経済学部に進学しましたが、高等部時代に同学部の講義を受講すれば2単位取得できます。進学する学部が確定していなかった僕は、どの学部に進学しても2単位が認められる「青山スタンダード」というカテゴリーの中から授業を選択しました。

部活動でも高大連携をする機会がありました。3年生のときには青学校友会の130周年記念コンサートがあり、大学生ブラスバンドと一緒に舞台上で演奏させていただきました。このような活動を通して、大学の先輩から学部の情報やキャンパスライフなど、さまざまな情報を得ることができました。高校生のうちに将来を具体的に思い描き、計画的に学ぶことができたのは、大学のキャンパスが隣接している高等部ならではの環境です。



— [高大連携] — ing

page 11-12



キリスト教教育



WEB「キリスト教教育」ページ

真実を求める心を培い、 神や人生について深く考える力を育てる。

キリスト教教育は、米国メソジスト教会の宣教師によって建てられた青山学院の教育の根幹をなすものです。
生徒たちがキリストの愛に触れ、自己の生き方を見つめ、隣人を愛し社会に貢献できる人として巣立ってくれることを願っています。

個を尊重しながら、共に生きるには

宗教主任 北川理恵

私たちは神に命を与えられ、互いに助け合う存在だと聖書は告げています。その一方で、自己中心に陥り、周りに責任転嫁をしながら生きてしまう人間の愚かさをも聖書は描いています。そのような私たちがいかにして自分自身を知り、互いを愛し、共に生きていくのか。学校生活や社会にも溢れているこの問いに、神の恵みの中で向き合おうとする聖書の御言葉と礼拝が、一人一人の指針や支えになることを願っています。



神の愛を感じる毎日の礼拝

全校生徒と教職員がともに講堂に集い、聖書の御言葉(みことば)を通して自らを振り返る毎日の礼拝は、この学校が最も大切にしている時間です。
週一回、各クラスで行われるホームルーム礼拝では、生徒が司会、奨励(話)、奏楽等を担当し、クラスメイトの言葉に耳を傾けます。

週に一回の「聖書」の授業

青山学院の教育の土台は聖書の御言葉です。そして、この御言葉を学ぶ時間が「聖書」の授業です。授業では、聖書を手に取り、自分自身について、また隣人について考え、神と私たちとの生きた関係について学びます。また、さまざまな切り口から聖書を紐解くと、自分自身の生き方を考えるだけでなく、キリスト教を信仰する世界の人々の価値観を理解することができます。

キリスト教に触れる様々な行事

夏休みのグリーンキャンプ、冬休みのホワイトキャンプは、大自然の中で仲間との親睦を深め、聖書を学び、神様や人生について考える機会です。また、クリスマスやイースター、特別礼拝などを通して、キリスト教の伝える真理に深く触れていきます。



ホワイトキャンプの様子



聖歌隊

キリスト教教育活動に関わるクラブ

オルガン部、聖歌隊、ハンドベル部は礼拝での奉仕をする特設クラブです。聖歌隊は外部の合唱コンクールでも活躍し、オルガン部から音楽大学に進学する生徒もいます。ABF(聖書交友会)は聖書が語りかけるメッセージに耳を傾けるクラブ活動です。



国際交流



WEB「国際交流」ページ

国や文化の違いを超えて、他者を理解し支援することのできるサーバントリーダーを育てる。

本校の国際交流が目指すものは、「価値観の多様性 (diversity) の共有」です。これは、世界中の人々が「愛と平和」のうちに互いを認め合い、共に生きるというイエス・キリストの教えに根差したものです。本校はその思想を実践し、グローバル化の時代に対応できる人間の育成に励んでいます。

多様性の受容は青山学院の伝統です。

「ダイバーシティ」という言葉が一般的になる前から、青山学院には多様性を受容する空気が流れていました。さまざまなバックグラウンドを持った生徒が同じホームルームで学び、お互いを認め合っています。本校の国際交流プログラムは、隣人の価値観を認めながら、進んで人と社会に仕え、その生き方が世の光となる人、「サーバントリーダー」を育てることを目指しています。

短期交換留学プログラム (学校間交流)

英国ケンブリッジの名門パブリックスクールであるリーズ校、ルネサンスの文化を色濃く残すイタリア・ミラノ郊外にあるクレスピ校との間で姉妹校提携を結んでおり、それぞれ数名の生徒による約2週間の短期交換留学を実施しています。ホームステイや現地校の寮で生活しながら、授業や課外活動などのアクティビティに参加しています。

カナダ・ホームステイ

夏休みに2週間、約30名でトロント市近郊のベリー市を訪問します。地域の施設 (老人ホーム・YMCA等) の訪問、チャリティー活動、ナイアガラの滝見学、大リーグ観戦、カヌー体験など様々なイベントが用意され、異文化や大自然を体験できるだけでなく、英語力を試す格好の機会となっています。

長期海外留学

学外の各種留学斡旋機関の派遣などによって1年間の長期海外留学をする場合に、休学またはそれに準ずる手続きを経て高等部に復帰することが可能です。帰国後に同じ学年に戻る第一種留学と、年下の学年に戻る第二種留学の二種類の制度があります。年間で平均して10~15名程度の生徒がこの制度を利用しています。

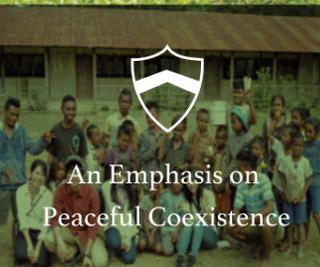
帰国生の受け入れ

本校は1970年代から、毎年一定数の帰国生を受け入れてきました。帰国生は普通のクラスに入り、異文化の体験者として周囲に影響を与えてくれます。一方、帰国生が円滑に学校生活に順応できるよう、国際交流員の教員が「アドバイザー」となって、学校生活や学習の問題の相談に個別に応じる体制を整えています。



長期留学生の受け入れ

毎年数名、海外からの長期留学生を引き受けています。英語圏出身だけでなく、さまざまな国や地域出身の留學生がいます。留學生はホームルームに所属してクラスメイトと共に授業に出席し、学校行事やクラブ活動にも参加します。長期留學生から各国の文化や価値観、政治経済、他国から見た日本について学ぶことも多く、留學生は国際理解の重要な役割を担っています。



平和・共生



WEB「平和・共生学習」ページ

「平和を願う人」から「平和を実現する人」へ。

過去を見つめ、現在を知り、未来を描く。

これが、本校の平和・共生教育の理念です。

「他者と共に生きる」のは決して易しいことではなく、

現実には複雑な問題が山のようにあります。その山積みの問題から

逃げ出さずに、新しい知識と出会い、人と出会い、試行錯誤することで、

ジグソーパズルを組み立てるように未来を創造する力を養います。

「会いに行く」から、はじめよう。

平和・共生教育を支える力は、生徒たちの自発性、探究心です。フィリピンや東ティモール、岩手県宮古市などの訪問プログラムに参加した生徒たちは、数々の出会いの中で、地域の課題や地元の人たちと話したことを「自分のこと」として悩み、考えるようになります。そして、考え抜いたアイデアを校内・校外で実行することで、さらに新しい学びや経験が生まれます。見栄えだけがよい支援活動ではなく、地道に、長期的に地元の人々と向き合ってきたからこそ見えてくる支援のかたちがあります。修学旅行でも同様に、長崎市の人々と出会い、インタビューや交流を通じて、平和やキリスト教などへの思いを受けとめることで生徒の心の中に未来への種火をともします。

修学旅行を軸にした平和学習

修学旅行は3泊4日で長崎から阿蘇までを中心に九州(北部)をまわります。特に長崎市では、「トコ神父と潜伏キリシタンの歴史を伝える」「長崎から世界への平和メッセージ」「長崎の歴史からグローバル社会を考える」など主題を設け、観光地を見学するだけでなく、新聞社への取材や、さまざまな専門家へのインタビュー、長崎市内の高校生や大学生とのディスカッション等を含む探究学習を行います。

岩手県宮古市の高校との交流

東日本大震災の年から岩手県宮古市の高校との交流を続けています。現地を訪れ、被災地について、防災について直接肌で感じながら学ぶとともに、異なる地域・環境の高校生と一緒に考えながら交流を深めています。文化祭では宮古コラボデザイングッズや特産ワカメのチャリティー販売を行うなどの活動をしています。

青山学院フィリピン訪問プログラム

クリスマス礼拝での献金によってスポンサー(里親)支援をしているフィリピン子どもたちに会いに行く訪問プログラムです。フィリピンで暮らすスポンサーチャイルドの家庭や学校、支援センターなどを訪問し、一緒に遊びながら、支援とはなにか、共に生きるとはどうすることなのか、といったテーマについて議論し、理解を深めます。青山学院初等部、中等部と合同で行っているプログラムです。

東ティモールスタディツアー

東ティモールのコーヒー生産農家を訪問するスタディツアーです。農村のフィールドワークを通じて教育、環境、医療などの地域の課題から、コーヒー産業とフェアトレードといったグローバルなテーマまでを広く研究します。この開発経済学の研究プロジェクトは、生徒自主学习団体BLUE PECOと協力して取り組んでおり、文化祭ではフェアトレードコーヒーのチャリティー販売等を行っています。



平和・共生LogBook

本校では、多くの授業の中で平和・共生に関するテーマを取り扱っています。理科では原子力や放射線について学び、現代社会では核兵器にまつわる国際的な議論、平和憲法のあり方などを学びます。また、聖書の授業ではキング牧師の生涯を、英語では映画「Invictus」などを通して、様々な文化的背景を持つ他者と共生する社会の在り方について、思考を深めていきます。これらの学びは3年間を通して行われ、生徒はさまざまな教科を横断した総合的な平和・共生学習の記録ノートである「LogBook」に学びの軌跡をまとめていきます。





University
Connections

高大連携



WEB「高大連携」ページ

未来を見据えた学びで、可能性を切り拓く。

高校時代に触れる大学の学問は、それぞれの専門分野の広さと奥深さを見せてくれます。同じ敷地内に大学のほとんどの学部があるという恵まれた環境を活かし、大学との連携を深め、一貫教育のさらなる良き実りを得ることをめざします。

大学授業の履修

3年生の希望者が放課後に青山キャンパスの大学の授業を履修して、内部進学した際にその単位が認められるという制度があります。大学生と一緒に授業を受けることは、「学問入門講座」とはまた違った意味で、知的探究心の向上につながると期待しています。



学問入門講座

青山学院大学・専門職大学院の教員が、それぞれの専門分野についてわかりやすくオンデマンド配信（一部対面式）で講義を行います。講座は例年30講座ほど用意され、生徒は自分の関心のある講座をいつでもどこでも視聴できます。大学での学問研究の面白さ、奥深さに触れることができます。

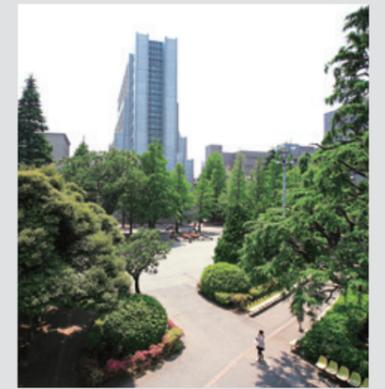
2025年度学問入門講座テーマ		
学部学科	講義テーマ	
文学部	英米文学科	イギリス近代小説の成立
	フランス文学科	ヴォルテール「カンディッド」を読む:哲学的コトと啓蒙思想
	日本文学科	話し言葉の日本語集-日々の会話に潜む文法-
	史学科	「考古学」入門
	比較芸術学科	音楽「学」入門・シューベルト「魔王」を例に
教育人間科学部	教育学科	保育学を知ってみよう!
	心理学科	「見る」ということ、「見られる」ということ
経済学部	経済学科	通勤手当の成立と都市拡大
	現代経済デザイン学科	世界の貧困の現状と課題~貧しい国はなぜ貧しいのか~
法学部	法学科	「法学を学ぶとは」
経営学部	経営学科	会計入門
	マーケティング学科	マーケティングにおけるデータ分析
国際政治経済学部	国際政治学科	国際政治経済学・入門:2大思想潮流の視点から
	国際経済学科	国内外の課題にどのように取り組むべきか?—経済学の視点から考える—
	国際コミュニケーション学科	「移民国家日本・Immigration and Japan」
総合文化政策学部		デジタル社会のクリエイティビティ
		デザインが社会を変える
理工学部	物理科学科	重力波天文学の幕開け
	数理サイエンス学科	リスクとの付き合い方~確率の視点から~
	電気電子工学科	電力工学概論
	経営システム工学科	経営工学とIE/研究事例「青学サッカー部における分析シート作成支援システムの開発」
社会情報学部		ピクトグラム~世の中にあふれるステキな情報~
		多様性を生かした創造活動:共同体と自由
		「経営戦略とは何か?」
地球社会共生学部		アーティスト思考で考える環境とビジネス 気候変動問題と開発途上国
コミュニティ人間科学部		“わたし”の不思議 企業の役割とは?企業と地域社会の接点
国際マネジメント研究科		消費者の知覚と情報処理:消費者の五感に注目する「感覚マーケティング」の紹介
会計プロフェッション研究科		国際租税法を学ぶ
キリスト教関連科目		大学でなぜ、宗教、キリスト教を学ぶのか?

青山学院チャットルーム

希望者は昼休みや放課後に青山学院大学の留学生たちと彼らの母国語である英語・韓国語・中国語・フランス語・ドイツ語などで交流し、言語力の向上や異文化理解を体験できます。

大学協定校・認定校オリエンテーション、IELTS講座

内部進学者を対象に、大学協定校・認定校を利用した留学準備プログラムを行っています。留学に必要な英語資格試験の一つである「IELTS」の対策講座も、無料で5回実施しています。



青山学院大学学部学科・大学院研究科 一覧	
大学	
文学部	英米文学科
	フランス文学科
	日本文学科
	史学科
	比較芸術学科
教育人間科学部	教育学科
	心理学科
経済学部	経済学科
	現代経済デザイン学科
法学部	法学科
	ヒューマンライツ学科
経営学部	経営学科
	マーケティング学科
国際政治経済学部	国際政治学科
	国際経済学科
	国際コミュニケーション学科
総合文化政策学部	総合文化政策学科
理工学部	物理科学科
	数理サイエンス学科
	化学・生命科学科
	電気電子工学科
	機械創造工学科
	経営システム工学科
	情報テクノロジー学科
社会情報学部	社会情報学科
地球社会共生学部	地球社会共生学科
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学科
大学院	
文学研究科	国際政治経済学研究科
教育人間科学研究科	総合文化政策学研究科
経済学研究科	理工学研究科
法学研究科	社会情報学研究科
経営学研究科	
専門職大学院	
国際マネジメント研究科	
会計プロフェッション研究科(会計専門職大学院)	

教育課程 Educational System

主体性を持って「学び」を選択する。

青山学院大学への進学者は8割以上。受験勉強に偏ることなく学ぶことができるのが高等部の特徴です。数多くの選択科目や総合的な探究の授業、大学教授による学問入門講座など、好奇心を刺激し、探究心が求めるままに選択できる学びの機会が豊富です。

多彩な選択科目から自らに必要な学びを掴み取る

本校は授業週5日制を実施しており、1日6時間(木曜日のみ7時間)で50分単位の授業を行っています。「愛と奉仕の精神」「思考力・判断力・コミュニケーション能力」「他者と共に生きようとする姿勢」「グローバルな視野」をもつ人間の育成に努めることを目標にカリキュラムを作成しています。2年次からは選択科目が置かれ、3年次ではカリキュラムの半分を選択科目が占めます。これにより、各自の関心のある科目をより深く学習でき、青山学院大学への内部進学はもちろんのこと、多様な進路選択にも対応できます。総合的な探究の時間の一環として、青山学院大学・専門職大学院の

先生方による《学問入門講座》(⇒12ページ)を開講しており、進路選択に役立てています。

多様な目標を持つ仲間と同じホームルームで学ぶ

本校では文系・理系といったコース制は設けておらず、ホームルームには多様な進路志望のクラスメイトが共存しています。また、必修の英語の授業ではホームルームを習熟度別のクラスに分割し、学習効果を高めています。



カリキュラム

教科・学年	1年	2年	3年
01 聖書	聖書(1)	聖書(1)	聖書(1)
02 現代の国語(3)	現代文総合I(2)	現代文総合II(2)	
03 国語	言語文化(2)	歴史総合(3)	政治・経済(3)
04 地理公民	地理総合(2)	公共(2)	
05 数学	数学I(3)	数学II(4)	3単位選択科目から3科目を選択(9) ^{注4}
06 数学	数学A(2)	統計入門(1)	
07 理科	生物基礎(2)	物理基礎(2)	
08 保健体育	体育(2)	体育(3)	体育(2)
09 保健体育	保健(2)	英語コミュニケーションII(3)	英語コミュニケーションIII(3)
10 芸術	2単位選択科目から1科目を選択(2) ^{注1}	英語コミュニケーションII(3)	論理・表現III(2)
11 外国語	英語コミュニケーションI(3)	論理・表現II(2)	2単位選択科目から3科目を選択(6) ^{注5}
12 外国語	論理・表現I(2)	古典探究(I)または化学基礎(β)(3) ^{注2}	
13 家庭	家庭基礎(2)	2単位選択科目から2科目を選択(4) ^{注3}	自由選択科目 ^{注6} [総合的な探究の時間](2)
14 情報	情報I(2)		
15 総合的な探究の時間			
16 ホームルーム			

注1 音楽I、美術I、工芸I、書道I
 注2 理科の必修科目に関しては、2年次までに3科目を履修するものとする。化学基礎を履修しなかった場合は地学基礎を履修するものとする。
 注3 文学、数学B、化学基礎(a)、地学基礎、物理I、音楽II、美術II、工芸II、書道II、オーラル・コミュニケーションA、リテラチャー、英語演習A、プログラミング入門
 注4 古典探究(II)、地理探究、日本史探究、世界史探究、数学III、物理、化学、生物、選択音楽、選択美術、上級英語
 注5 聖書特講、国語表現実践、国語特講A、国語特講B、日本史特講、現代史特講、マーケティング、地理特講、現代社会特講A、現代社会特講B、数学C、数学基礎演習、数学総合演習、数学発展演習、物理I、化学I、生物総合、地学特講、環境科学、球技A、球技B、体育特講、音楽III、美術平面、美術立体、工芸III、書道III、オーラル・コミュニケーションB、メディア・イングリッシュ、リスニング・コンプリヘンション、英語演習B、食物基礎、被服基礎、ICT活用探究実践、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語
 注6 オニ退治 一統太郎のウラ側、現在・過去・未来-現代の問題を歴史的に視て未来に繋げる、スポーツ「する」「みる」「ささえる」、映像制作演習、Bible Value Influences
 ※ 選択科目は、希望者が多数であった場合は抽選があります。また、都合により開講されない場合があります。

自由選択科目

教科の枠を超えて深く学ぶ

カリキュラム改定により新たに設置された「自由選択科目」は、学びたい生徒が自由に受講でき、自らの問題意識をベースに深く掘り下げて学ぶことができるように作られた授業です。中には教科横断型のものも用意されています。

2024年度 自由選択科目 一覧

- 平家物語を語る・装う・舞う
- Bible Value Influences
- 聞くこと・知ること・伝えること
- One for DX! All for DX!
- 映像制作演習



平家物語を語る・装う・舞う 発表公演

平和・共生論文

「平和と共生」教育の集大成

本校の平和・共生教育は、「平和な社会、他者と共生する社会」を実現するために、具体的な課題を見つけ、解決しようとする態度を養うことを目的としています。平和・共生論文とは、任意の社会課題の一つを決め、問題の分析や解決へのアプローチについて研究する論文で、本校では、生徒全員が執筆します。論文執筆の技術はM.アイゼンバーグの「Big 6 Skills Model」をベースにアレンジされたレクチャー動画「6ステップ」を用いて三年間をかけて修得します。この論文の執筆は「総合的な探究の時間」の一部に位置づけられており、生徒はこの執筆経験を経て、生涯学び続けるために必要な態度と技術を養います。また、学年で10名の優秀論文に選出された生徒の論文は「平和・共生論文集」に全文が掲載されます。



論文発表会

73期生 平和・共生論文 タイトル例

- 犯罪抑止のための思考のアップデート
—あなたが犯罪者にならないために—
- 現代社会における「孤食」の解消の必要性
～子ども食堂が果たすべき役割とは～
- 新しい概念とアンチを共生させるには
—4種類のアンチに分類して考える—
- これからの日本の再開発をより良いものにするには
—住民に寄り添った再開発を目指して—
- 出る杭を打ち合う私達 一同調圧力からの脱却—
- 人々の日常を彩るひとつのピース ー伝統工芸と共に生きる—
- 障がい者殺人事件から考える人間の条件とは
～内なる優生思想に基づく犯行からわかること～
- 戦後の関係改善のために 一人々の心理から見る戦争の仕組み—
- 「第二次世界大戦」をどう教えるべきか
～平和で対等な世界を創るための歴史修正主義との向き合い方～
- 「子供の声は騒音か」
—法的、社会的観点から考える子供と大人の共生—



平和・共生論文集

ICT教育

深い学びの実現と情報活用能力の育成

協働的な問題解決学習や探究的な学び・時間や空間の制約を超えた学びの深化のため、多様な教育活動を可能にし、より深い学びを実現するツールとしてICT機器を利活用しています。同時に、学習の基盤となる情報活用能力・情報社会における責任ある態度の育成を目指します。

ICT機器を用いた教育実践

授業

意見を同時に書き込みながら行うグループディスカッション、協働で作成した資料を用いたプレゼンテーション、クイズアプリを用いた学習成果の発表、自分の体の動きを端末で撮影・分析して改善に取り組む(体育)といった活動を実施しています。

学校生活

アンケートフォームを用いた意見収集や希望調査、プリントのオンライン配布、ビデオ会議ツールを利用した外部とのインタビューなど、学校生活全体でICT機器の利活用が進んでいます。



教科学習

幅広い視野をもち
人間としての基礎力をつける

聖書

青山学院の心を学ぶ

聖書の授業は、一教科の学びとして位置づけられていますが、学問的な領域にとどまらず、スクールモットーの「地の塩、世の光」が表す人間形成を目指し、この時代を生きていくことについて聖書から学びます。青山学院での学びの土台となる授業です。

外国語

「英語の青山」の名にふさわしい良き伝統

英語を学ぶことを通じて、普遍的なものを追い求める心を養い、広く世界全体に目を向け、国や文化の違いを超えて社会に貢献できる人を育てることを目指します。必修授業では習熟度別に授業を行い、各生徒が自分のレベルに合ったスピードで英語を学習できるように配慮しています。選択の授業では、英語を道具として使い映像作品を製作して発表する発信型の授業、長文読解やプレゼンテーション等を行う授業、CNN やNews website を扱う授業など、生徒のニーズに合わせた幅広い種類の授業を用意しています。また、第二外国語として、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語を選択することもできます。

国語

言葉を正しく理解し、自分を表現する力を養う

国語科の目標は「読解力を養い、表現力を身につける」ことにあります。高等部では近・現代の文学に加えて古典にも重点をおき、生徒一人ひとりの日本文化総体に対する関心が深まることを最終的な目標としています。

地歴・公民

身近なことから世界を広げる

①現代の複雑な世界が形成されてきた過程をさぐる歴史、
②地域的・空間的視野から自然や社会をとらえる地理、
③政治・経済などの社会的構造から物事をとらえる公民、
という三つの大きな視野から社会現象を見ていきます。また、選択科目の特講では、グループ学習、レポート、討論、発表などを通じて、自ら調べて考えるなかで、主体的な学習能力、課題に対する分析力、論理的思考能力、表現力など、これからの社会を担う力を育てることを目標とします。



数学

数学は文化である

数学は、先人たちが長い時間と多大な労力を費やして発展させてきたものです。このような“文化”としての数学を学ぶことを念頭におきながら、現代文明に必要な不可欠な数学的素養を培います。2年生では、統計の基礎を体系的に学ぶ時間を必修項目「統計入門」として設けています。授業を通して数学の基本的な技術を習得することにより、柔軟な論理的思考や創造性が生まれます。そして身につけた知識を駆使し、自ら問題解決ができる能力を育みます。

理科

冷静な分析と総合的な判断

現代社会は環境問題をはじめ多くの問題をかかえています。その責任が科学にあるように言われることもあります。はたしてそうでしょうか。冷静に問題を分析し、誰にでもわかる言葉で解決の道筋を模索することが問われているのではないのでしょうか。理科において一番大切なことは自然から学ぶことです。そのため実験や観察を重視し、できる限り多くの時間を割くようにしています。

保健体育

心身ともに強く成長することを願って

生涯体育を実践する基礎を培う高校時代。青年期に必要な運動量を確保し、生徒が主体となって協働的に取り組み、創意・工夫、協力して運動が行える種目を実施しています。保健では身近な事柄を教材にとりあげ、生涯において必要な保健的知識を習得し、実践的な健康・安全管理ができることを目標としています。

家庭科

生活全般を実践的に学ぶ

家庭科では、人間が生きていくために欠かせない、生活の基本的な知識および技術を学ぶだけでなく、現在の家庭を取り巻く諸問題にも目を向けさせます。そして、自立した生活者としての意識を高め、自分はどうのような生活・人生を送りたいのかを考える機会を与え、自分の生活・人生をデザインする力を身につけることを目指します。

芸術

豊かな心

音楽、美術、工芸、書道の各授業を通して、国際社会における教養としての知識・技術を学ぶとともに、自らの考えを表現することや社会の中の芸術や文化に真摯に向き合う姿勢を育みます。また鑑賞や発表を経験することで他者への理解を深め、豊かな心を養います。

情報

欲張りに探究する心、的確に判断する力を

Society5.0に向けて変化する社会で生きていくための資質・能力を育むことを目指し、
(1) 情報に関する科学的な見方・考え方を心得る
(2) 問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する知識と技術を習得する
(3) (1)および(2)を踏まえながら実践することで、情報社会に主体的に参画する態度を養います。

選択科目

メディア・イングリッシュ

現代メディアをナビゲートする

現代メディアや最新ニュースに関わる多様なトピックについて、読み・書き・リスニング・ディスカッションなどの活動を通じて学びを深めます。これらの題材を扱うのに必要となる語彙の習得やスピーキングスキル・プレゼンテーションスキルを磨き、表現力を育みます。ネイティブ教員が担当。

上級英語

英語で考える「世界の現状」

今日世界が抱える問題(戦争、差別、貧困など)について学んでいます。これらの問題が互いにどのように結びつき、その背後にどのような原因があるのかを考えます。その過程において、生徒は各テーマに関連した約400の表現を学び、それらとつながりの深い言葉を自ら考えます。その上で話し合い、発表へと展開させていきます。高等部の中でもっともチャレンジングな授業のひとつです。ネイティブ教員が担当。

リスニング・コンプリヘンション

「生きた英語」を身につける

スピーチ、ニュース、ヒットソング、映画などのディクテーションを通して、文法、語法、発音、英語の正しい発話の仕方などを体系的に学んでいく授業です。歴史上の名スピーチを聞き取って暗唱し、それを講堂の舞台上で発表してみたり、集大成のグループプロジェクトとして、映画のアフレコ制作に取り組んでいます。アフレコでは班ごとに映画の台詞を聞き取って台本を起こし、映像に合わせて皆が役を演じながら、自然と生きた英語を身につけていきます。

オーラル・コミュニケーションB

成功のための「会話を越えた」ツール

何も持たずに1,200席のPS講堂のステージに立ち、スライドを用いて、堂々と行われる英語のプレゼンテーション。この授業では、簡単な物語紹介からフォーマルなディベートにいたるまで多岐に渡るスピーキングを学びます。発音や語彙の指導はもちろんのこと、週ごとのインターネット教材を駆使したサポートを徹底し、オリジナルな着想から表現に至るまで必要となる技術を養います。ネイティブ教員が担当。

国語表現実践

「書く」ことで表現力・思考力を磨く

基本的な技術や表現の工夫を確認しながら、文章力の向上を目指します。互いの文章への批評や、ディベート形式の議論、グループ発表等も行い、意見や主張を理解し合う経験を重ねています。論理的な文章だけでなく、自由な発想で「書く」ことを楽しむ課題もあり、表現力・論理的思考力をバランスよく身につけることを目指しています。年度末には編集委員をたてて記念文集を作成しています。



選択美術

自己探求のその先に

選択美術は3単位の選択科目です。1、2年次で学んだ内容を土台にして、自らの感じたことや考えたことを造形作品として出力し、発信するまでのプロセスを大切にします。油彩画や自由制作に時間をかけて取り組むことで自分と向き合い、今まで気づかなかった一面を知る機会になればよいと考えています。また社会に目を向け、自ら作品のテーマを探る姿勢も重要です。そして美術室には同じように全力で表現に向かう仲間がいます。制作中に交わす何気ない意見交換や作品の鑑賞を通して、他者とのコミュニケーションについて深く考える授業です。

現代社会特講 B

ディベートで学ぶ社会の諸問題

「憲法第9条を改正すべきか」、「核廃絶は可能か」、「過去の戦争とどう向き合うべきか」といった政治における主要なテーマから、「ネット言論を規制すべきか」、「積極的安楽死を法的に認めるべきか」といった時事的な問題まで、様々な課題を設定し、グループで話し合い、必要な資料を集め、作戦を練った上で、ディベートを行います。その過程で、自身の考えとは異なる意見に触れて広い視野を身につけること、論理的思考力を養うことなどをめざしています。

マーケティング

過去の文脈を学び、未来をデザインする

マーケティングでは、コーヒー市場をテーマに探究学習を行います。前期には、青山学院高等部が継続的に支援している東ティモールのコーヒー農園の事例をもとに、コーヒーのグローバル・マーケットの歴史と展開、フェアトレードの意義と課題などについて議論します。後期には、プロジェクト・ベース学習を行います。古今東西のマーケティングの事例研究を通じ、「市場」という抽象的な概念について考察します。

生物総合

「実物」に触れて学ぶ

生物総合では「実物を見る」ことを大事にして生物学の中でも系統分類と進化の分野について学びます。年間を通してほぼ毎週、解剖・観察や実験などを行っており、グループワークなども取り入れて生徒が主体的に学べる工夫をしています。解剖や観察では様々な生物(ヒドラ、プラナリア、ハマグリ、イカ、エビ、カニ、アジ、マウス、植物など)の形態や特徴を知ることにより生物同士が系統的にどのような関係にあるのか学んだり、環境にどのように適応してきたのかを予想したりすることができます。また、国立科学博物館見学など校外での実習も行っています。

環境科学

「未来」を生きるための思索

身近な自然環境問題を科学的に調べ、未来に生かすことのできる知識を身につけます。講義の他、共通で行う実験、様々な環境問題(大気汚染物質の測定、食品添加物、温暖化、ゴミ問題、リサイクル、水の処理、放射性廃棄物、騒音、生物の多様性と絶滅、エネルギー問題など)の中から検証可能なテーマを選び、資料を集め、調査、実験、討論などを行い、最終的に論文にまとめ、研究発表します。

球技A・体育特講(ダンス)

身体活動を通じて「表現力・リーダーシップ」を高める

球技Aでは、自分たちが選んだ種目をチームに分かれて分担し、計画・実行・評価まですべてを実践します。体育特講(ダンス)ではダンスを踊る・創るという活動を通じて互いの良さを認めあい、テーマ・振付・構成をすべて自分たちで考える発表会を行っています。「考える(計画)・課題発見・実践する(実践・解決)・評価する(自己評価)・探究する(考察)」事を自主的に行い、運動に対する理解を深めます。また、仲間との関わりを通して自らの経験や技術を人に伝えるという「表現力・リーダーシップ」を身につけることをめざしています。

SCHOOL CALENDAR

年間行事



3年間の思い出は
大切な仲間たちと一緒に

ホームルームデー

1・2年生を対象に、毎年5月の初旬にホームルームデー(クラス単位で行く日帰り旅行)を行っています。各クラスで自分たちの行きたい場所を独自に選び、企画運営し、親睦を深めています。



2年 ダンス発表会

自分たちが授業で考えたリズムやダンスを「ボディーパーカッション」として一つの作品に創り上げ、全員で発表します。発表会を通じて、クラスでの協力やお互いを認め思いやる気持ちを育むことを目標としています。

スノーキャンプ

1年生から3年生までの希望者を対象に実施。大自然の中、真冬の屋外スポーツ(スキー・スノーボード)を通じて、心と身体を鍛え、友人や仲間との親睦を図ることを目的に行っています。それぞれの技術班に分かれてインストラクターに教わるので、経験者はもちろん、未経験者も新たなスポーツに挑戦可能です。



2年 陸上競技大会

授業での取り組みの成果発表として、クラス対抗の陸上競技大会を行います。7種目の競技を2日間かけて順番に行い、それぞれの配点を加算していき総合得点で順位を競います。競技会の運営も体育係を中心に行われます。

4 APRIL 5 MAY 6 JUNE 7 JULY 8 AUGUST 9 SEPTEMBER 10 OCTOBER 11 NOVEMBER 12 DECEMBER 1 JANUARY 2 FEBRUARY 3 MARCH

- | | | | | | | | | | | | |
|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ●入学式 ●新入生歓迎会 ●クラブ紹介 ●イースター礼拝 ●定期健康診断 | <ul style="list-style-type: none"> ●ホームルームデー ●3年進学指導会 ●伝道週間 | <ul style="list-style-type: none"> ●バレーボール大会 ●生徒集会 ●ミュージックフェスティバル ●グローバル・ウィーク I | <ul style="list-style-type: none"> ●夏期行事 ●グリーンキャンプ ●クラブ合宿・強化練習 ●カナダホームステイ ●生徒会サマーキャンプ | <ul style="list-style-type: none"> ●夏期行事 ●クラブ合宿・強化練習 | <ul style="list-style-type: none"> ●文化祭 ●クレスピ校生徒訪問 ●2年進学指導会 | <ul style="list-style-type: none"> ●グローバル・ウィーク II ●伝道週間 ●リーズスクール生徒訪問 | <ul style="list-style-type: none"> ●2年修学旅行 ●青山学院創立記念日 ●2年ダンス発表会 ●クリスマスツリー点火祭 | <ul style="list-style-type: none"> ●クリスマス礼拝 ●スノーキャンプ | <ul style="list-style-type: none"> ●推薦入試 ●帰国生入試 ●2年陸上大会 | <ul style="list-style-type: none"> ●一般入試 | <ul style="list-style-type: none"> ●卒業礼拝 ●送別会 ●卒業式 ●スノーキャンプ ●クラブ合宿 |
|--|--|---|--|--|--|---|--|--|--|---|---|



修学旅行

2年生の11月に九州を訪れます。各自研究テーマを持って、原爆資料館、軍艦島、九十九島めぐり、阿蘇山などさまざまな場所を訪れ、行く先々で歴史、自然、文学、生活、産業、地理などを学び、平和について考えます。(→P.10参照)



SCHOOL DAY 高等部の1日

7:30 開門	8:15 ~ 9:05 1時限	9:15 ~ 10:05 2時限	10:15 ~ 10:35 礼拝	10:40 ~ 11:30 3時限	11:40 ~ 12:30 4時限
12:30 ~ 13:20 昼休み	13:20 ~ 13:30 HR	13:40 ~ 14:30 5時限	14:40 ~ 15:30 6時限	15:15 ~ 16:00 7時限	18:00 終鈴
*(木)12:30~13:15		*(木)13:15~14:05		*(木)14:15~15:05	
*(木のみ)総合的な探究の時間					



STUDENT COUNCIL

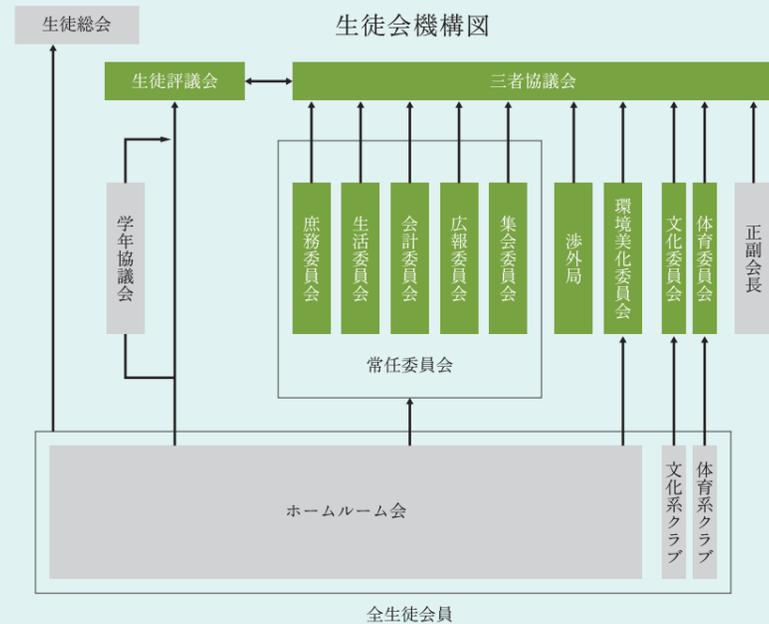
生徒会

WEB
「生徒会」ページ



自主性を尊重し、責任ある行動を促す

生徒会は、自由な校風と言われる本校の自主的な活動の要を担っています。バレーボール大会や文化祭などの行事の企画・運営やボランティア活動、他校との交流などのほか、生徒の学校生活に関する要望を常時受け付け、学校の規則について全校生徒を巻き込んで議論し、時にはそれを変える運動も展開してきました。また、ホームルームデー（遠足）や修学旅行のコースなどは、生徒の代表を中心に各クラスで話し合いを行い、決定しています。このように、生徒会やホームルーム活動を通して、一人ひとりの責任ある行動が養われています。



三者協議会

生徒会会長と副会長、各委員会の長で構成され、生徒会の中心となって活動しています。学校行事(バレーボール大会など)の企画から運営に至る全てを担当するほか、よりよい学校生活を送るための議論やルール作りにも積極的に取り組んでいます。

常任委員会／役割

- ・集会委員会 講堂イベントの音響や照明、企画運営
- ・広報委員会 生徒会広報誌などの編集・発行
- ・会計委員会 生徒会活動での会計全般の処理
- ・生活委員会 学校生活向上のための意見収集
- ・庶務委員会 三者協議会に関わる印刷物の処理

文化委員会・体育委員会

文化系・体育系の各クラブから選出

環境美化委員会

校内の美化・リサイクル・ゴミに関わる運営

渉外局

討論会 WAN の運営、他校との交流

生徒評議会

各HRの代表が学校全体のルールや行事について話し合う

生活心得

青山学院高等部の生徒手帳には、学校が生徒に対して課す「校則」ではなく、教員と生徒の合議によって作りあげた「生活心得」が記載されています。「心得」の冒頭の「全員で努力していきたい」という言葉には、自由な校風を大切に、自主性と責任感を養って欲しいという思いが表れています。

生徒会主催の行事

文化祭

選挙で選ばれた本部役員を中心に「文化祭実行委員会」が組織され、文化祭が企画・実施されます。文化祭期間の2日間、全校生徒は各ホームルーム、有志団体、クラブなどさまざまな場で、個性溢れる企画や日頃の努力の成果を披露します。



バレーボール大会

学年別クラス対抗で行われるバレーボール大会は、生徒会役員を中心に、各ホームルームから選ばれた運営部員の手により運営されています。昼休みには、年間を通してバレーの練習に打ち込む姿が見受けられるほど、全校生徒が熱くなる行事です。



ミュージックフェスティバル

毎年6月には生徒会の集会委員会が企画・運営するミュージックフェスティバルが行われます。バンドを中心にダンス、パフォーマンスなど、激戦のオーディションを勝ち抜いた団体が熱演を繰り広げます。

生徒会主催サマーキャンプ

夏休みに行われるキャンプには、生徒会役員だけでなく一般生徒も参加して、学年や立場の垣根を越えて学校のあり方についてディスカッションをし、バーベキューや花火大会などのアクティビティで親睦を深めます。

生徒会の構成員は1200人の生徒全員です
2023年度 生徒会長 73期生 (2024年度卒業生) N.S.

高等部の生徒会は、全校生徒が会員であるのが特徴です。会長1人、副会長2人で組織される生徒会役員は3人1組で立候補し、1つのチームとして選出されます。

私たちの代は3人で思い描いた生徒会を実現するために、生徒会のSNSを立ち上げるようになりました。それまで生徒会のお知らせなどはGoogle Classroomやプリントで発信していたのですが、全校生徒1200人のほとんどが使っているSNSを使えば、もっと生徒会を身近に感じてもらえると思ったのです。

大変だったのは企画書作りです。SNSの危険性と伝えるべき情報の狭間で悩み、試行錯誤しながら2024年6月に完成しました。生徒会の会議風景を配信し、年末のカウントダウンを行い、バレーボール大会で撮影した写真を配信するなど大いに活用し、現在はフォロワーが600人を超えています。

生徒会長の任期中、会議は148回開催しました。ときに意見がまとまらず、辞めたいと思ったこともありますが、私自身、言葉にできないほど大きな成長がありました。将来は会長という肩書をいただいた1年間を超える意義あることに挑戦したいと思います。

制服

従来の男子制服(A型)、女子制服(B型)を自由に選択できる。上衣とズボン・スカートの組み合わせも任意。

冬服 A型またはB型の濃紺のブレザー。ワイシャツ・ブラウスは白または薄い単色。ズボンはブレザーに準ずる色・素材のA型ズボン、もしくは所定のB型ズボン。スカートはひだ付きの繊維製品で色は自由。スカート着用時は白または紺の膝下ソックス。ネクタイは色・柄・着用ともに自由。正装時、A型ブレザーにはネクタイを着用。

夏服 白無地のワイシャツ・ブラウス・ポロシャツ。ズボンは冬期と同様。スカートはひだ付きの濃紺無地。

略装 略装として、所定のセーター・ベスト着用可。靴下を着用。



SCHOOL UNIFORM

CLUB ACTIVITIES

クラブ活動

生徒中心で運営し
思いきり打ちこむ時間



クラブ活動は、人格形成の大切な機会として、各クラブの裁量に任せて生き生きと行われています。生徒の多くは、内部進学が可能な学校の特徴を活かして、3年生の半ばまで活動に打ち込んでいます。

[クラブ一覧]

文化系	体育系
クラブ	卓球部
美術部	フェンシング部
ブラスバンド部	剣道部
マンドリン・ギター部	チアリーディング部
ライフ・サイエンス部	男子バスケットボール部
	女子バスケットボール部
	男子バレーボール部
	女子バレーボール部
	バドミントン部
	男子ハンドボール部
	女子ハンドボール部
	サッカー部
	ラグビー部
	硬式野球部
	陸上競技部
	男子テニス部
	女子テニス部
	ソフトテニス部
	柔道部
	水泳部
	馬術部
	ゴルフ部
	ダンス部
特設クラブ	
ABF (聖書交友会)	
ボランティア部	
聖歌隊	
ハンドベル部	
オルガン部	
出版部	
放送部	



フェンシング部



サッカー部



男子バレーボール部



女子バレーボール部



ハンドベル部



野球部



チアリーディング部

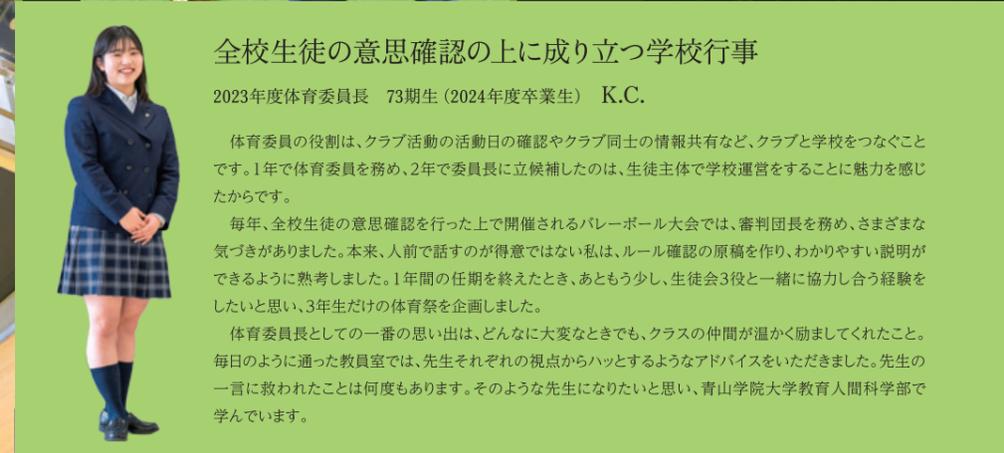


ラグビー部

女子テニス部



男子バスケットボール部



全校生徒の意思確認の上に成り立つ学校行事

2023年度体育委員長 73期生(2024年度卒業生) K.C.

体育委員の役割は、クラブ活動の活動日の確認やクラブ同士の情報共有など、クラブと学校をつなぐことです。1年で体育委員を務め、2年で委員長に立候補したのは、生徒主体で学校運営をすることに魅力を感じたからです。毎年、全校生徒の意思確認を行った上で開催されるバレーボール大会では、審判団長を務め、さまざまな気づきがありました。本来、人前で話すのが得意ではない私は、ルール確認の原稿を作り、わかりやすい説明ができるように熟考しました。1年間の任期を終えたとき、あともう少し、生徒会3役と一緒に協力し合う経験をしたいと思い、3年生だけの体育祭を企画しました。体育委員長としての一番の思い出は、どんなに大変なときでも、クラスの仲間が温かく励ましてくれたこと。毎日のように通った教員室では、先生それぞれの視点からハッとするようなアドバイスをいただきました。先生の一言に救われたことは何度もあります。そのような先生になりたいと思い、青山学院大学教育人間科学部で学んでいます。

[表彰]

●男子テニス部 | 第63回東京都高等学校テニス選手権大会:男子シングルス 優秀賞/団体ベスト16、第47回東京都私立中学高等学校テニス選手権大会:男子シングルス 優秀賞 ●女子テニス部 | 第47回東京都私立中学高等学校テニス選手権大会:女子シングルス 優秀賞 ●水泳部 | 東京都高等学校春季水泳競技大会兼第78回国民体育大会東京都代表選考会:女子200m個人メドレー 第5位、東京都高等学校選手権水泳競技大会兼第74回関東高等学校選手権水泳競技大会予選会兼第78回国民体育大会東京都代表選手選考会:女子200m自由形 第8位、第69回東京都十六高校対抗水上競技大会:女子200m個人メドレー 第1位/女子200m自由形 第1位/女子100m背泳ぎ 第2位/女子200m背泳ぎ 第2位/女子400m自由形 第3位/女子4×50mフリーリレー 第2位/女子4×100mフリーリレー 第3位/女子総合 第4位/男子

200m背泳ぎ 第3位、東京都高等学校新人水泳競技大会:女子100m自由形 第2位/男子50m背泳ぎ 第3位 ●フェンシング部 | 令和5年度東京都高等学校フェンシング大会兼第69回全国高等学校フェンシング選手権大会予選会:男子個人対抗フルール 第2位/男子個人対抗エペ 第3位/男子個人対抗サーブル 第4位/男子学校対抗フルール 第2位/女子学校対抗フルール 第2位、第59回東京都フェンシング新人大会:男子学校対抗フルール 第2位/男子学校対抗エペ 第2位/女子学校対抗エペ 第2位、第60回東京都高等学校フェンシング学年別大会:2年男子個人フルール 優勝・第2位 ●女子ハンドボール部 | 第三支部総合体育大会:第2位 ●男子ハンドボール部 | 第三支部総合体育大会:第2位 ●女子バレーボール部 | 第5回One in Christ Cup:高校の部 準優勝、令和5年度東京都高等学校バレーボール女子部春季大会:予選 第1位、新人選手権大会:予選組内 第2位 ●男子バレーボール部 | 第三支部総合体育大会:第2位 ●女子バスケットボール部 | 第53回私立中高協会第三支部総合体育大会:優勝、令和5年度東京都高等学校女子バスケットボール夏季大会:Hブロック 第2位 ●馬術部 | 第57回SHIZUOKAホースショー-小障害C 第2位 ●卓球部 | 第三支部総合体育大会:女子団体戦 第2位 ●ダンス部 | 東京都私立中高創作ダンス発表会:創作ダンス 次点 ●野球部 | 令和5年度東京都高等学校野球連盟:表彰選手 ●美術部 | 第51回東京都私立中学高等学校 生徒写真・美術展:美術の部 奨励賞 ●生花同好会 | 小原流学生いけばな競技会 南関東地区大会:最優秀賞1名・優秀賞1名 ●ブラスバンド部 | 第63回東京都高等学校吹奏楽コンクール:東京都予選 金賞、第47回東京都高等学校アンサンブルコンテスト:東京都予選:木管クラリネット6重奏 金賞/金管部門 金管8重奏 金賞 ●聖歌隊 | 2023年度NHK全国学校音楽コンクール 東京都予選:金賞、東京都春のコーラスコンテスト2024高等学校の部:女声部門 銀賞



ブラスバンド部

FACILITIES

校内施設

西校舎

ホームルーム教室
特別教室
-生物A・B
-調理
-被服
-書道
大教室
小教室
集会室
多用室
生徒会室
放送室
保健室
相談室

北校舎

ホームルーム教室
特別教室
-CALL教室A・B
-物理A・B
-化学A・B
-地学
-音楽
-美術
-工芸
彫刻陶芸
音楽練習室
音楽練習室A・B・C
小教室A・B・C
多用室A・B
和室

PS講堂

講堂
オルガン練習室
図書館
PC実習室A・B

体育館

メインアリーナ
サブアリーナ
プレイルーム
柔道場
保健実習室
トレーニングルーム
更衣室
部室

カフェテリア

グラウンド

テニスコート

2008年から2014年にかけて行われた高等部校舎建築。
古き良き伝統を受け継ぎながらも、時代の要請に沿って機能性、安全性の高い快適な環境づくりを進め、未来の教育の場にふさわしい校舎となっています。
明るい校舎と充実した施設・設備により学習環境が向上し、広々とした空間でクラブ活動もより一層のびのびと行えるようになりました。
噴水のあるウッドデッキの中庭や、大きな藤棚に面したカフェテリアは、生徒たちの憩いの場となっています。



進路

高等部を卒業する生徒の約85%は、青山学院大学へ進学しています。その他専攻分野などの関係で他の大学を受験する生徒が約15%おります。内部進学は、高等部3年間の学業成績、3年次に行われる学力テストの結果その他を総合的に判断して推薦が行われ、大学側の決定を経て、入学が認められています。



青山学院大学への進学				2025年	2024年	2023年
青山学院大学	文学部	英米文学科		12	12	11
		フランス文学科		1	1	1
		日本文学科		3	7	4
		史学科		6	1	1
		比較芸術学科		13	17	17
		教育人間科学部	教育学科		15	15
		心理学科		13	10	13
	経済学部	経済学科		47	25	43
		現代経済デザイン学科		5	9	4
	法学部	法学科		18	22	25
		ヒューマンライツ学科		4	2	6
	経営学部	経営学科		53	53	53
		マーケティング学科		32	32	32
	国際政治経済学部	国際政治学科		23	23	23
		国際経済学科		23	23	23
		国際コミュニケーション学科		14	14	14
	総合文化政策学部	総合文化政策学科		47	47	47
	理工学部	物理科学科		0	2	1
		数理サイエンス学科		0	0	0
		化学・生命科学科		4	3	5
		電気電子工学科		3	3	1
機械創造工学科			0	5	2	
経営システム工学科			0	2	3	
情報テクノロジー学科			3	9	2	
社会情報学部		社会情報学科		1	5	5
地球社会共生学部		地球社会共生学科		1	3	0
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学科		0	0	0	
	計		341	345	354	
外部大学・その他			58	56	54	
卒業生総数			399	401	408	

生徒在籍数				
	ホームルーム数	男子	女子	計
第1学年	10	182	218	400
第2学年	10	187	201	388
第3学年	10	185	210	395
総計	30	554	629	1183

(2025年4月現在)

他大学合格者					
	学校名	2025年	2024年	2023年	
国公立大学	秋田大学	0	0	1	
	お茶の水女子大学	0	1	0	
	高知大学	0	0	1	
	神戸大学	0	0	1	
	東京大学	3	1	2	
	東京外国語大学	0	1	0	
	東京学芸大学	0	1	0	
	東京藝術大学	1	0	0	
	東京工業大学	0	1	0	
	一橋大学	1	0	2	
	横浜市立大学	0	0	2	
	文部省外大	防衛大学校	1	1	1
		防衛医科大学校	1	0	0
	私立大学	愛知医科大学	1	0	1
岩手医科大学		2	1	0	
大阪芸術大学		0	0	1	
金沢医科大学		0	1	1	
北里大学		2	3	1	
慶應義塾大学		22	25	27	
国際医療福祉大学		0	2	0	
国際基督教大学		2	0	0	
埼玉医科大学		0	1	1	
芝浦工業大学		1	1	1	
上智大学		4	8	23	
聖マリアンナ医科大学		1	3	1	
多摩美術大学		2	1	0	
中央大学		2	6	6	
東京医科大学		1	1	0	
東京音楽大学		1	0	0	
東京歯科大学		1	0	0	
東京慈恵会医科大学		1	1	0	
東京女子医科大学		0	1	0	
東京薬科大学		0	1	0	
東京理科大学		1	7	13	
同志社大学		0	0	1	
東邦大学		0	2	4	
獨協医科大学	1	0	1		
日本医科大学	0	2	0		
日本歯科大学	1	0	0		
法政大学	2	5	3		
武蔵野美術大学	0	1	0		
明治大学	6	13	10		
明治薬科大学	1	1	1		
立教大学	6	5	15		
立命館大学	2	0	0		
立命館アジア太平洋大学	1	0	1		
早稲田大学	15	9	21		
その他の私立大学	37	36	39		
外国の大学		17	13	27	

(2025年4月現在)
(国公立50音順 過年度卒業生を含む)

高等部で培った力と、共に学んだ仲間たちが人生の紆余曲折を乗り越えさせてくれました

藤崎 忍 さん
株式会社ドムドムフードサービス 代表取締役社長

Profile
1985年高等部卒業。青山女子短期大学児童教育学科に進学。39歳で渋谷109のアパレルショップの店長を務めた後、新橋で居酒屋を経営。2017年ドムドムフードサービスに入社し、翌年には代表取締役社長に就任する。事業再建のために開発した斬新な新商品が話題となった。

我が家は4人兄妹のうち私を含めた3人が青学生です。私たち兄妹はいわゆるキラキラした「That's青学」という雰囲気ではなく、一言で言えば「下町気質」。主にスポーツに勤しみ、私自身はハンドボール部に所属して、日焼けした肌刈り上げの髪でパワフルに練習していました。当時の青山学院にも当然多様なタイプの人々がいて、スポーツをしたい人はスポーツを、勉強したい人は勉強を、自分の頑張りたいことを頑張るといった雰囲気でした。それぞれが自分のステージをしっかりと歩んでいたため、他者に過干渉せず、互いに半目し合うこともなく、他の人のことは自然に応援する土壌があったように思います。男女や国籍なども特にわざわざ気にするような雰囲気もなく非常に平等で、今の時代でいう「ダイバーシティ」な環境であったと感じています。

私は短大卒業後に結婚して、39歳のとき初めての就職として渋谷109のアパレルショップに勤め始めました。「急に自分の生き方を変えるのは大変だったでしょう」とも言われますが、私としては自分を変えたのではなく、環境が変わっただけ。青山学院で、垣根を作らず自分の思うことに自由にチャレンジしていいという感覚を培ってきたので、39歳でも新たな生き方に飛び込むことを決意できたのです。もちろん苦しくてもがいた時期もありましたが、そこで応援してくれた先輩・後輩・友人たちがいました。40代で居酒屋を起業したときには先輩・後輩・友人、そして高等部時代それほど交流のなかった方もたくさんお店に応援に来てくれました。いまでも経営者として高等部当時あこがれていた先輩とご一緒し刺激をもらうことがありますが、相互に応援し合うという土壌が高等部で築かれ、いまだに続いているのを感じます。

私は今、児童養護施設のサポートに取り組んでいます。私自身、青山学院という恵まれた環境の中で豊かに学ぶことができました。そこで得たものを子どもたちの将来のために還元したいのです。今の私のライフワークとなる取り組みに、高等部からの友人、先輩・後輩たちが応援し、協力してくださっていることは言うまでもありません。



M E S S A G E

卒業生メッセージ

高等部を一言で表すと「自由」 何かに没頭しなければもったいない時間です

山崎 弘喜 さん
株式会社テレビ朝日勤務/アナウンサー

Profile
2011年高等部卒業。水泳部ではバタフライが専門。青山学院大学国際政治経済学部に進学し、2015年にアナウンサーとしてテレビ朝日に入社。「サッカーAFCアジアカップ2019」など各種スポーツ中継や「ワールドプロレスリング」「Get Sports」などで活躍中。

久しぶりに高等部のキャンパスを訪れると、校舎が新しくなっていて驚きました。僕らの時代はカフェテリアはなかったですし、PS講堂も建て替えている最中だったので、今は校舎で迷いそうですね。チャイムは昔と同じで懐かしくなります。

高等部時代に没頭していたのは水泳です。全国大会出場を目標にして取り組み、大学に進んでも水泳を続けて目標を達成しました。僕の在籍時代には大学にもプールがあり、大学生と一緒に泳いだり教えてもらったりしていました。いまでも水泳部は大学から中等部まで合同で試合をやっているなど、同じ敷地にある一貫校ならではの関係性だと思っています。

水泳部には色々なレベルの部員がいました。僕はクラブチームに所属していましたが、水泳を始めたばかりという部員もいました。それぞれが自分の目標を持って主体的に取り組んでいたため、経験値やレベル別で部員間で隔りがあることもなく、今でも同期や先輩・後輩と旧知を温めることがあります。このような関係性は、部活動に限ったわけではなくクラスでも同様で、高等部から入学した僕と初等部・中等部から青山学院というクラスメイトとの間にも隔りではなく、疎外感を感じることもありませんでした。

当時を思い返して面白く、そしてしっかりと取り組んでおけばよかったと思う授業は外国人の先生とのオーラルコミュニケーションの授業ですね。いま仕事でスポーツ中継をすることが多いのですが、海外大会でのアナウンスや大会の記事はもちろん英語で、細かいニュアンスまで汲み取るのに苦労しています。高等部のレベルの高い英語教育はきっと役に立ったはずと後悔する今日この頃です。好きなことを学べる「選択授業」も覚えています。僕は「音楽」や「食物」という授業を選択したのですが、「食物」では二週間に一回調理実習があって楽しかったのを覚えています。

青山学院は本人の主体性を尊重してくれて、やりたいことを自由にやらせてくれるイメージがあります。そして自分がやりたいことを持っている人が多かった印象です。同級生の名前を聞くと「音楽に熱中していた友だち」「留学していた友だち」と、何かしらに一生懸命になっていた姿が浮かんできます。高等部の時間を充実させるかどうかは自分次第。どんなことにも自由に没頭することをお勧めします。



入試情報

2026年度入学試験について

	推薦入試	帰国生入試	一般入試
募集人員	男女合わせて約65名	男女合わせて約25名	男女合わせて約70名
出願資格	<ol style="list-style-type: none"> 本校を第一志望とし、合格の際は入学を確約できる者。 2010(平成22)年4月2日より2011(平成23)年4月1日までに出生の者で、2024年4月以降国内の中学校(学校教育法第1条に掲げられた中学校もしくは中等教育学校の前期課程)に在籍し、2026年3月に卒業・修了見込みの者。 3年2学期の9教科の評定合計(5段階)が40以上であること(男女とも)。また、2年次の学年評定および3年2学期の評定に「2」以下がないこと。 ※3年2学期の評定とは、12月時点の成績(1学期からの総合成績)で、公立高校に提出する成績と同一のものであること。 3年次の欠席日数が5日以内で、2・3年次の欠席日数の合計が10日以内であること。 保護者のもとから通学可能な者(一般入試の項参照)。 ※上記の出願資格条件は、推薦入試合格を確約するものではありません。 	<ol style="list-style-type: none"> 保護者の海外勤務等に伴い、1年以上継続して、現地校、インターナショナル校、または全日制日本人学校に在籍していた者で、帰国後2年10ヶ月以内(2026年度入試の場合、2023年6月以降の帰国)であること。 ※なお、本校への入学予定日(4月1日)を資格算定の基準とします。 ※本人が単独で海外留学した場合は該当しません。 2009(平成21)年4月2日より2011(平成23)年4月1日までに出生の者で、次の[A]、[B]のいずれかに該当する者。 [A] 2026年3月に中学校を卒業見込みの者または2025年3月に中学校を卒業した者。 [B] 海外の現地校、インターナショナル校、または全日制日本人学校いずれかに在籍している者(もしくはこれらの学校で中学課程を修了した者)。なお、日本の学齢に換算して中学3年生にあたる場合は、出願時に現地のGrade9を修了していなくてもよい。 日本国籍を有する者、または、日本国の永住許可を得ている者。なお、外国籍者は出願時に家族と共に日本国内の住民票がある者。 ※この条件に当てはまらない場合は、一般入試の受験をご検討ください。 保護者のもとから通学可能な者(一般入試の項参照)。 ※事前審査:2026年入試より出願資格認定の事前申請(10月中旬～1カ月程度)を行います。詳細は本校ウェブサイトをご覧ください。 	<ol style="list-style-type: none"> 2009(平成21)年4月2日より2011(平成23)年4月1日までに出生の者で、次の[A]、[B]のいずれかに該当する者。 [A] 2026年3月に中学校を卒業見込みの者または2025年3月に中学校を卒業した者。 [B] 海外の現地校、インターナショナル校、または全日制日本人学校いずれかに在籍している者(もしくはこれらの学校で中学課程を修了した者)。なお、日本の学齢に換算して中学3年生にあたる場合は、出願時に現地のGrade9を修了していなくてもよい。 保護者のもとから通学可能な者(本人のみの下宿、アパート、会社等の子弟寮からの通学は認めておりません)。保護者は父もしくは母が原則ですが、やむを得ない理由で不可能な場合は、東京またはその近辺に一家計を立て(就学中の兄・姉等は不可)、学校との連絡が容易にとれ、直ちに来校できる、親権者と同等の責任を持つ在京保証人が必要であり、入学後はその家庭から通学していただくことを条件といたします。
選抜方法	適性検査、面接、書類審査	適性検査、面接、書類審査	国語・数学・英語(リスニング含む)、書類審査
インターネット出願入力期間	12月20日(土)0:00～1月16日(金)18:00	12月1日(月)0:00～1月10日(土)18:00	12月20日(土)0:00～1月28日(水)18:00
出願書類受付期間(郵送のみ)	1月15日(木)～1月16日(金) (締切日消印有効)	1月6日(火)～1月10日(土) (締切日消印有効)	1月25日(日)～1月28日(水) (締切日消印有効)
入学試験日	1月31日(土)	1月31日(土)	2月12日(木)
合格発表(インターネットのみ) 手続書類交付	2月1日(日)20:00～(予定)	2月1日(日)20:00～(予定)	2月13日(金)20:00～(予定)
入学手続き	書類提出	2月2日(月)13:30～14:30	2月2日(月)15:00～16:00
	入学金納付期限(ネット決済)	入学金・施設設備料あわせて 2月2日(月)14:30	2月2日(月)16:00
	施設設備料納付期限(ネット決済)		2月20日(金)12:00
入学者説明会	2月28日(土)午後(時間未定)		

入試結果

	推薦入試						帰国生入試						一般入試								
	募集人員		志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	募集人員		志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	募集人員		志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率			
2025年	男女合わせて約65名	男子		32	31	21	1.5	男女合わせて約25名	男子		80	63	35	1.8	男女合わせて約70名	男子		388	321	98	3.3
		女子		133	126	46	2.7		女子		110	95	30	3.2		女子		441	357	100	3.6
		計		165	157	67	2.3		計		190	158	65	2.4		計		829	678	198	3.4
2024年	男女合わせて約65名	男子		61	60	27	2.2	男女合わせて約25名	男子		84	70	24	2.9	男女合わせて約70名	男子		446	374	97	3.9
		女子		143	141	40	3.5		女子		95	82	29	2.8		女子		513	428	99	4.3
		計		204	201	67	3.0		計		179	152	53	2.9		計		959	802	196	4.1
2023年	男女合わせて約70名	男子		88	84	32	2.6	男女合わせて約30名	男子		87	71	25	2.8	男女合わせて約80名	男子		401	328	76	4.3
		女子		135	134	38	3.5		女子		114	94	43	2.2		女子		549	484	100	4.8
		計		223	218	70	3.1		計		201	165	68	2.4		計		950	812	176	4.6

学費一覧

※納付方法は学期ごとの分納となります。
※下記一覧の金額は事情により改訂されることがありますので、あらかじめご承知おきください。

	(2025年 4月入学生)		
	1年	2年	3年
入学金	320,000		
施設設備料	250,000	250,000	250,000
授業料	670,000	670,000	670,000
実習料	5,000	5,000	5,000
保健料(消費税込)	6,000	6,000	6,000
冷暖房料	12,000	12,000	12,000
後援会会費	22,000	22,000	22,000
生徒会入会金	5,000		
生徒会会費	12,000	12,000	12,000
修学旅行積立金	80,000	65,000	
卒業積立金			55,000
合計	1,382,000	1,042,000	1,032,000

入学初年度の費用としては、次のようなものがあります。

※一般入試・帰国生入試の入学手続きに際し、施設設備料に限り、納付を延期することができます。

(2025年 4月入学生)		
入学前(入学手続き時)	入学金	320,000
	施設設備料	250,000
	合計	570,000
入学後(各学期ごと3回の分納)	授業料	670,000
	実習料・保健料・冷暖房料	23,000
	後援会会費	22,000
	生徒会入会金・会費	17,000
	修学旅行積立金	80,000
合計	812,000	
その他の購入費用	制服	40,000～60,000
	教科書	30,000～39,000
	体育着・シューズ等	38,000～46,000
	学習用端末	99,550

奨学金制度

人物・学力ともに優れていながら経済的な補助を必要とする生徒に、東京都および各県の高校奨学金、独立行政法人日本学生支援機構大学予約奨学金等の奨学金制度があります。本校としても次のような独自の奨学金制度を設けています。

給付奨学金	
青山学院高等部奨学金	高等部の退職教職員・同窓会などからの寄付をもとにしたものです。経済的に特に困窮している生徒に対して給付の形で奨学金を支給します。
青山学院スカラーシップ奨学金	青山学院校友会から経済的に特に困窮している生徒に対して給付の形で奨学金を支給します。
青山学院万代基金給付奨学金	青山学院万代基金から経済的に特に困窮している生徒に対して給付の形で奨学金を支給します。
青山学院万代奨学金 高等部特別奨学生	本学院の学友であり、理事でもあった故万代順四郎氏の寄付を基金として設けられたもので、学業成績、人物ともに優れた生徒若干名に顕彰のため奨学金を給付しています。
友情資金に基づく奨学金	生徒会で月1回、生徒の自発的意志によって献金されたものを、生徒会員の中で経済的補助を必要とする生徒に給付しています。
授業料軽減制度	本校の制度ではありませんが、授業料軽減制度には次のようなものがあります。
高等学校等就学支援金	国の法律に基づく全国一律の制度です。家庭の教育費負担を軽減するために、授業料の一部に対して支援金が支給されます。
東京都私立高等学校等授業料軽減助成事業	保護者と生徒がともに東京都内に居住している生徒の保護者に、その経済的負担を軽減することを目的として、授業料の一部を軽減する制度です。